
遊戯王ZEXAL外伝～暗黒機皇帝来襲!～

天羅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王ZEXAL外伝「暗黒機皇帝来襲！」

【Nコード】

N5134X

【作者名】

天羅

【あらすじ】

遊星とアキの娘 優絆ゆづきと共に遊馬は巨大な闇に立ち向かう！

プロローグ（前書き）

時制は、大体WDCが終わったぐらいと思って下さいm（
m ではどうぞ！

プロローグ

「くっ 奴の行動がここまで派手になって来てるなんて…」 暗くて狭い部屋でパソコンを見て その女性は呟く。パソコンの画面にはパスワードのようなものが映っていた。 ハッキングしてるのだろうか？

疲れた彼女は溜め息しながら一息つく。そして呟いた。

「やはり必要なのね。ナンバーズカード…」

彼女の口から驚くべき言葉が出た。

これが、壮絶な戦いの始まりとなった。

彼女はパソコンの画面を変え、少年のデュエルを見て言った。

「彼に力を借りるしかないわね。」 その画面に映っている人物…それは…

九十九遊馬。

忍び寄る黒い影（前書き）

いよいよ本編！ お楽しみください

忍び寄る黒い影

場所が変わってハートランドシティのとある中学校

「かつとビングだ 俺」と言っただのはお馴染みのバカ。 九十九遊馬だ。学校の授業が終わり、これから彼の大好きなデュエルタイムである。 いつも彼は仲間と共に放課後がデュエルを楽しんでる。が…

「遊馬、今日はデュエルしないほうがいい。」と言っただのは幼なじみの鉄男である。 「遊馬くん、これ知らないんですか？」と次に言っただのは等々力委員長である。 彼は遊馬に、パソコンの記事を見せた。

「な 何じゃこりあ！」

その書かれた記事には『ハートランドシティで謎のデュエリスト狩り』と書かれてた。 「最近この町でデュエリストが何人も重傷を負わされる事件が多発してるんです。」

「デュエリストのまえに黒い仮面の男が現れ それに遭遇した人々は重傷を負わされているんです。 しかも重傷者2人は死亡か確認されてるんです」と説明する。

「だから、ショッピングモールも広場も何処もデュエル出来ないんだ。」と鉄男が補足説明をする。

そして、遊馬は今日デュエル出来ず、そのまま帰宅する事に…

「遊馬、何をそんなに落ち込んでるんだ？」そう言ったのは、遊馬に取り憑いた生命体アストラルだ。

「黒い仮面の奴のせいでデュエル出来ないからだよ。」遊馬はふてくされて答えた。「黒い仮面？」とアストラルは問い、遊馬はアストラルに事情を話した。

「なるほど… デュエリストの襲撃か… ナンバーズの可能性もあるな…」 キキキツ！とバイクの止まった。そこには遊馬のライバル、シャークこと神代凌牙だ。

「どうした？ いつもは広場でデュエルじゃなかったのか？」

「それが… 黒い仮面の奴が現れたとかで…」

「黒い仮面？ ああ。あの最近現れた奴か…」とシャークは呟いた。

「それで、何処もデュエルやってなくてさ」 シャーク、デュエルしようぜ。デュエル。」

と遊馬は頼んだが、

「ワリい。俺も今日はデュエルはパスだ。」と言い捨てる。

「えええ、やろうぜ シャーク。」

と頼み込む遊馬。

「俺は今 黒い仮面の男を追ってるんだ。」とシャークはさらに言った。

「何でだよ。 その黒い仮面で奴、超やべえんだろ？」

「それでもだ。 デュエリストを襲うなんて、許せないからな。」

かつて凌牙は全国大会の時、ある人物によりハメられた。それにより表舞台から追放され、その後も、人のカードを奪う輩を沢山見てきた。だから彼は、そういうのを許せないのだろう。

「じゃあな！ 遊馬」

と凌牙はバイクを走らせ、去っていった。

そして夜…

凌牙は夜の人の少ない場所にバイクを走らせていた。

「ちっ 今日には現れないな…」

夜の一時～二時になっても黒い仮面は現れなかった。

が、そのとき！

「！！」 凌牙に一枚のカードが投げつけられた。 キキキツと
バイクを止め、カードを確かめた。

「！ デーモンの斧…」

はっ！ と振り返ると黒いローブをつけた黒い仮面が現れた。

「コイツが黒い仮面…」

「貴様…デュエリストだな？」と黒い仮面はそう訪ねた。

「ふ… デュエリストだって言ったらどうする？」

「なら私には好都合、デュエリストならつぶす。」

と黒い仮面は言いそのままデュエルディスクをセットした。

その時、凌牙のデュエルディスクが勝手に起動した。

「な… 勝手に…」

「これで貴様は逃げられない」

（デュエルをしろってか…上等だぜ）

「デュエル！」

デュエルが始まった。

闇の化身 暗黒機皇帝インフィエリオン降臨！（前書き）

ついに重要カード 暗黒機皇帝登場！

次からは前書きに今回の最強カードをやっていきます。
よろしく願いますm（＿）（＿）m

そしてあとがきに次回予告もやっていきます。

闇の化身 暗黒機皇帝インファイエリオン降臨！

凌牙と黒い仮面のデュエルが始まった。

凌牙 LP 4000

黒い仮面 LP 4000

「先攻は頂く！ 私のターン！」

黒い仮面はがドローする。

「インフルエンスコアを攻撃表示で召喚」 黒い仮面の前に黒くて丸い機械が現れた。 コアがドス黒く光ってる。

インフルエンスコア 攻撃力0

「ターンエンド」

「あいつ 舐めてんのか！ 俺のターン ドロー！」
凌牙がドローする。

「俺はビッグジョーズを召喚！」 半機械化したサメが現れた。

ビッグジョーズ 攻撃力1800

「さらに ビッグジョーズの召喚が成功したことにより シャークサッカーを特殊召喚！」

「レベル3のシャークサッカーとビッグジョーズをオーバーレイ！」

「2体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築！ エクシース召喚！」

「来い！ エアロシャーク！」

地面からサメと飛行機が合体した怪物エアロシャークが現れた。

潜航母艦エアロシャーク 攻撃力1900

「オーバーレイユニットを1つ使い 手札×400ポイントのダメージを与える！ したがって1600のダメージを与える」

オーバーレイユニットが吸収されて、魚雷が発射され 黒い仮面に襲う。

黒い仮面 LP2600

「さらに魔法カード エクシーズボンバーを発動！ オーバーレイユニットを一つ使い 相手に1000ポイントダメージを与える」
エアロシャークのオーバーレイユニットが魔法カードエクシーズボンバーに吸収され 爆発し、爆風が黒い仮面を襲う！

黒い仮面 LP1600

「これで1ターンキルだ！ エアロシャーク！ インフルエンスコアに攻撃！ビッグイーター！」

これが通れば1ターンキル しかし…

「手札から速攻魔法 ルインロットを発動！」

ついに黒い仮面が動いた。 「自分のモンスターを破壊する」

インフルエンスコアが砕け散った。

「何っ！ 自分から…」

黒い仮面は笑った。

「ふはは 条件が揃った！ インフルエンスコアが効果で破壊された時 自分のフィールドのカードを全て除外し、デッキ、手札、墓地から

暗黒機皇帝インフィエリオン∞ダーク、

インフィエリオンT

インフィエリオンA

インフィエリオンG インフィエリオンCをを特殊召喚できる。

全てのモンスターは闇属性 星1 攻守 0

「一気に五体…」

「合体せよ！ 暗黒機皇帝インフィエリオン！」

五体の機械が一つになった。

胸に青い∞のマークに全身黒いボディと黒いマントをつけたロボットの姿を現した。「暗黒機皇帝インフィエリオンの攻守はこのカード以外のパーツ×600となる」

暗黒機皇帝インフィエリオン 攻撃力2400

「ちっ！ エアロシャークの攻撃は中断だ。 カードを一枚伏せタ

ーン終了」

「悪いがこれで最期だ 私のターンドロー」

黒い仮面のターンになると、エアロシャークが吸い込まれた。

「何っ！ どういうことだ！？」

暗黒機皇帝インフィエリオン 攻撃力4300

「さらに手札から魔法カード ナイトメア・グロウを発動！ これにより罠カードの効果全て無効にエンドフェイズに全ての伏せカードを手札に戻る。 最も、エンドフェイズなど訪れないだろうがな」

とバカにした口調でしゃべった。

「そ そんな…」

「暗黒機皇帝インフィエリオンでダイレクトアタック！」

暗黒機皇帝が大砲のような物を突きつけ、エネルギーが高まる。

「死ね！」

弾が発射された その時有り得ないことが起こった。

「な 何だ！ 体が焼ける！」

「残念ながら バーチャルではない。現実の痛みとなりデュエリストを襲う」

「何だと！ ぐあああああああ！」

凌牙 L P O

デュエルが終わった。

凌牙は全身に火傷や大きな傷を負っていて、血が大量に流れ、倒れた。

「ふははははは」

と狂うように笑い黒い仮面は消えていった。

闇の化身 暗黒機皇帝インフィエリオン降臨！（後書き）

遊馬「シャークが黒い仮面とデュエルをし 怪我をした。

アストラル「奴はナンバーズではない。 この異様な力は一体…」

遊馬「黒い仮面の野郎…許さねえ！ 必ずシャークの敵を取ってやる。」

遊馬「次回 遊戯王ZEXAL外伝 『暗黒機皇帝VSナンバーズ』
かっとビングだ！ 俺！」

暗黒機皇帝VSナンバーズ(前書き)

今回の最強カード

『暗黒機皇帝インフィエリオン∞ダーク』

閻属性 星1 攻撃力 守備力 0 機械族

このカードの攻撃力と守備力はこのカード以外の「インフィエリオン」と名の付いたモンスター×600ポイントアップする。

1ターンに1度、フィールド上のシンクロモンスターまたはモンスターエクシーズを装備カードとして装備出来る。

このカードの攻撃力は 装備したモンスターの元々の攻撃力分アップする。

このカードがフィールドから離れたら、自分フィールドのカードをすべて除外する。

遊馬「なんだ このカードは？」

アストラル「詳しくは本編で！」

暗黒機皇帝VSナンバーズ

それから翌日 遊馬は、凌牙が病院に運ばれた事を明里に知らされた。

「シャーク！ しつかりしろ！ シャーク！」

遊馬の目の前には 沢山の大きな傷を負った凌牙が担架の上で眠っていた。

「退いてくれ！ 今から緊急手術をするんだ！」と医師にその場を退かされた。

「ゆ 遊馬…」

かすかだが凌牙は意識を戻し、囁いた。「！ シャーク！」

と 凌牙の声に気づいた遊馬は再び彼のもとへ。

そして凌牙は、「遊馬… 奴にエクシーズ召喚を使用するな…」
と 言い残し、再び意識を失った。

それからしばらくし、緊急手術により凌牙は一命を取り留めた。

病院から帰った遊馬は 元気がなかった。「遊馬。」と、アストラが話しかける。

「何だよ」 と機嫌悪そうに返事をした。

アストラは遊馬を励まそうとした。が 自分が何か言っていると遊馬を怒らせ兼ねない、と思って 「いや 何でもない」と言っしかなかった。

その時、「遊馬！ あの事件の事で変なことがわかったの！ ちよっと下に来て！」

と言ったのは、遊馬の姉 明里だ。

そして 「な 何じゃこりゃ!？」

そこには、凌牙と黒い仮面のデュエルの映像があった。

「偶然 移動型監視カメラに映っていたの ほら コレ見て!」

なんとデュエルのARヴィジョンが監視カメラに映っていた。もちろん監視カメラに、Dゲイザーなんてついてるわけない。なのにデュエルが映っていた。

しかも 謎の黒いモンスターが攻撃した時、周りの地面や木が破壊され、凌牙は怪我をしていた。くどいようだが、監視カメラに、Dゲイザーはついていない。

「遊馬 ナンバーズの可能性もあるぞ。 奴を追うぞ。」

と アストラルは言った。

「当たり前だ。 シャークの敵を取るぜ!」

と 遊馬は家を飛び出し、外へ出た。

どうでもいいが、『敵』ではなく『仇』が正解である。

国語が出来ない遊馬でした

そして、遊馬は 夜の人気の少ない所で 黒い仮面を探していた。
「くそ! 出てこい! 黒い仮面! 俺が倒してやる!」と叫んでいた。

その時！ 黒い仮面が遊馬のもとに姿を現した。

「お前が黒い仮面か！？」

「貴様 九十九遊馬だな…」と黒い仮面は言った。

「どうして俺のことを…」と遊馬は問うと

「何 結構有名だからな…」

有名 その言葉に遊馬は密かに嬉しそうであつた。

その時 黒い仮面がデュエルディスクをセットした。そして遊馬のデュエルディスクも勝手に作動した。 「勝手に動いた…」

「これで貴様は逃げられない デュエルで貴様をつぶす！」

「上等じゃねーか！ やってやる！ デュエルだ！」

「デュエル！」

「先攻は私だ！ 私のターンドロー！」

黒い仮面 LP 4000

「私はインフルエンス・コアを召喚！」

フィールドに黒いモンスターが現れた。そしてコアがドス黒く光つてる。 インフルエンス・コア攻撃力0

ターン終了」

「な 伏せカードナシ！？」

とアストラルと遊馬は攻撃力0のモンスターを攻撃表示にし伏せカードも無いことに驚いてる。

「警戒しろ！ 遊馬！」

「いや、今の俺には攻撃あるのみ！」

「俺のターン！ ドロー！」

遊馬 LP 4000

「俺はゴブリンドバークを召喚！」 飛行機に乗っているゴブリンが現れた。

ゴブリンドバーク 攻撃力 1400

「ゴブリンドバークの召喚に成功した時、手札からレベル4以下のモンスターを特殊召喚する」

遊馬は手札のゴゴゴゴーレムに手をかけようとしたが、「待て！ 遊馬！ 手札からハウリング・ウォリアーを特殊召喚しろ。」
てアストラルが止めた。

「何でだよ？ エクシーズ召喚できねーじゃん」

「いや ハウリング・ウォリアーは自分のモンスターをレベル3にできる！ それで リバイス・ドラゴンを呼べ！ 攻撃力ならホー
プと変わらない。」

むしろリバイス・ドラゴンの方が、後で攻撃力が高くなる。

それにゴゴゴゴーレムはいざって時は盾になる。」

と アストラルは説明し遊馬はそれに応じ ハウリング・ウォリアーを特殊召喚した。ハウリング・ウォリアー 攻撃力800

「ハウリング・ウォリアーの効果発動！ 召喚 特殊召喚に成功した時、 フィールドのモンスターのレベルを3にする！ 俺はゴブリンドバークのレベルを4から3にする！」

ゴブリンドバーク 星3

「レベル3のゴブリンドバグとハウリング・ウォリアーをオーバーレイ！」

2体が光となり重なった。

「2体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築！ エクシーズ召喚！ 現れる！ No.17 リバイス・ドラゴン！！」

と 現れたのは、 藍色が基調とした長い胴体の龍だ。 そして右角に17と数字が入っていた。

No.17 リバイス・ドラゴン 攻撃力 2000

「リバイス・ドラゴンの効果 オーバーレイユニットを一つ使い、500ポイント攻撃力をアップさせる。」

リバイス・ドラゴンは周りに漂う光の球を補食し攻撃力を上げた。

No.17 リバイス・ドラゴン 攻撃力2500

「リバイス・ドラゴン！ インフルエンス・コアに攻撃！ バイストリーム！」

リバイス・ドラゴンが口から光線を放った。

「手札から罠カード発動！ コアクラッシュ！」

なんと罠カードを手札から発動してきた。

「て 手札から罠カード！？」

と、アストラルは驚いた。

「ちよつと待て！ 罠カードはセットしてからだろ！？ しかも俺のターンに。」と、遊馬は抗議する。

「残念ながら、ルールより効果が優先だ。条件は満たされてるので発動できる。」

自分のモンスターゾーンに『コア』と名の付いたモンスターしかない時に相手が攻撃してきた時、このカードは手札から相手ターンのバトルフェイズ中に発動できる。インフルエンス・コアを破壊する。」

コアクラッシュ！の効果で インフルエンス・コアが砕け散った。
「自分でモンスターを破壊した…」

「ふはは これでもいいのさ。 インフルエンス・コアが効果で破壊された時、自分フィールドのカードを全て除外し、デッキ 手札 墓地から

暗黒機皇帝インフィエリオン∞ダーク

インフィエリオンT

インフィエリオンA

インフィエリオンG

インフィエリオンC

を特殊召喚する。

「一気に五体…」

「合体しろ、暗黒機皇帝インフィエリオン！」

五体のモンスターが一つになった。

青い∞のマークのあるボディに四体が集まった。

右にはトゲ三本が付いたカメのような機械が、盾のような物を持った右手に変わり、 左にはマンボウのような機械が大砲付きの左手になり、 下には、エイのような機械が足となり、頭にはコウモリのような機械が怪しく赤く光る顔となり、合体した。

「暗黒機皇帝インフィエリオンはこのカード以外のパーツ×600ポイントの攻守となる。」

暗黒機皇帝インフィエリオン 攻撃力2400

「なんだ？ このモンスター…」

動揺する遊馬。

「遊馬、攻撃しろ！ 攻撃力はリバイス・ドラゴンが上だ」とアストラルは指示をする。

「今はそれしかないか…」

「行け！バトル続行！ バイスストリーム！」

とリバイス・ドラゴンは攻撃する。

「インフィエリオンGの効果。相手のバトルフェイズに1度、攻撃モンスターを守備表示にする。」

右手のトゲ三本が飛び出し、そのトゲに付いたワイヤーがリバイス・ドラゴンを捕縛した。

No.17 リバイス・ドラゴン 守備力0

「つく！ カードを1枚伏せ、ターンエンド」

遊馬のターンが終わった。

「エンドフェイズ コアクラッシュ！の効果発動！ 手札からの発動に成功した時、エンドフェイズに相手に600のダメージを与える」

墓地からコアクラッシュ！が出てきて それから発する雷が遊馬を襲う！

「うあああ！」

遊馬 LP3400

「な 何だ！ この痛み！ バーチャルなのに…何で？」

凌牙の時と同じく遊馬は本当にダメージを受けてる。

「残念だが バーチャルではない。 この戦いはダメージを現実に変え、デュエリストを襲う！」

なんとか耐えた遊馬だが 足はガクガクだ。 さっきのダメージより恐怖が湧いてしまった。

「私のターン！」 なんとか耐えた遊馬だが 足はガクガクだ。 さっきのダメージより恐怖が湧いてしまった。

「私のターン！」 黒い仮面のターンが来た！

「暗黒機皇帝インフィエリオン 効果発動！」 暗黒機皇帝の∞が光り出し そこから青い触手が出てきた。 それがりバイス・ドラゴンを捕らえた。

「何だ コレは？」 と遊馬とアストラルは驚いた。

「暗黒機皇帝インフィエリオンは1ターンに1度、フィールド上のシンクロモンスターかモンスターエクシーズを吸収し装備する。

「なんだと!？」

触手に捕らわれたりバイス・ドラゴンは∞のマークの中に吸収された。

「そして暗黒機皇帝インフィエリオンの攻撃力4400

「そんな…。リバイス・ドラゴンが… あ！」

遊馬は何か思い出した。 『遊馬… 奴にエクシーズ召喚を使用するな…』 という凌牙の言葉を。

「なるほど… このモンスターはまるで… エクシーズキラー！」 とアストラルは分析した。

「モンスターエクシーズがなくなった貴様にもう負けしかない」と 黒い仮面は遊馬をバカにした。

「とどめだ！ 暗黒機皇帝インフィエリオンでダイレクトアタック！」

大砲のような腕が遊馬に狙いを定める。

「根絶のダークネスカノン！」

黒いエネルギーが集中し、遊馬に発射された。

「遊馬！ 罨カードだ！」「お おう！ 罨カード発動！ 緊急召喚！」

罨カードが発動された。

「緊急召集はダイレクトアタックが宣言された時、手札のレベル4のモンスターを守備力を0にして、表側守備表示で特殊召喚する！」

ゴゴゴゴーレム、俺を守ってくれ！」

遊馬の前に、ゴゴゴゴーレムが現れた。

「そして ゴゴゴゴーレムは守備表示の時1度だけ戦闘では破壊されない。」

ゴゴゴゴーレム 守備力0

ゴゴゴゴーレムが暗黒機皇帝の攻撃を受け止めた。

「ほお やるな… だがモンスターは残させない！ 手札から罨カード 愚かな道標を発動！」

「また 手札から…」

「暗黒機皇帝が相手プレイヤーに戦闘ダメージを与えなかった時、手札のこのカードを発動できる。」

このカードは暗黒機皇帝インフィエリオンの装備カードとなる。」

暗黒機皇帝インフィエリオンの罨カードが装備された。

「そして愚かな道標の効果！」

暗黒機皇帝のコアからリバイス・ドラゴンが出てきた。

「！？」

「1ターンに1度、装備したモンスターで攻撃ができる。」

「そんな…バトルにも使えるのか」

さらに動揺する遊馬。

「いけ 愚かなりバイス・ドラゴン！ 愚かな貴様の主人の敵となれ！ ゴゴゴゴーレムを攻撃！ バイスストリーム！」

リバイス・ドラゴンの攻撃がゴゴゴゴーレムに命中し、ゴゴゴゴーレムは、破壊された。

「カードを1枚伏せ ターンエンド」

リバイス・ドラゴンは暗黒機皇帝のコアの中に再び閉じこめられた。今、遊馬の手札は二枚。 ガガガマジシャンとダブルアップチャンス

次のドローにかかっている。

「俺のターン！ ドロー！」

引いたカードを見て、遊馬は笑った。

「俺は ガガガマジシャンを召喚！」

出てきたのは、遊馬のデュエルで大活躍してる主力モンスター、ガガマジシャン。

「さらに手札から魔法カード ダミーガガガドールを発動！ ダミーガガガドールはガガガマジシャンがフィールド上にいる時のみ発動できる。発動後 攻撃力と守備力が0でレベル4のモンスターとして特殊召喚する。」

ガガガマジシャンをモチーフにした何とも出来の悪い人形が出てきた。

ダミーガガガドール

攻撃力0 星4

「レベル4のガガガマジシャンとダミーガガガドールをオーバーレイ！」

「2体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築！エクシズ召喚！ 現れる！ No.39 希望皇ホープ！」

黄色と白が基調の体に形に39の書いた

戦士こそ 遊馬の相棒 希望皇ホープ！

「ダミーガガドールの効果！ エクシーズ召喚に成功したとき、オーバーレイユニットのこのカードを除外して、相手モンスターの1体の効果をエンドフェイズまで無効にできる！ インフィエリオンGの効果を無効にする！」

ホープから一つオーバーレイユニットが消え、インフィエリオンGの効果を無効にした。

「遊馬…この圧倒的不利な状況でダミーガガドールを引き当てるとは…君はやはり凄い！」と、アストラルが呟いた。

「だが 暗黒機皇帝インフィエリオンの方が攻撃力は上だ！」

「暗黒機皇帝は五体で一体に見えるが 実体は五体！ インフィエリオンGが効果を無効にされたため、俺はどのパーツにでも攻撃ができる！」

「気付いていたか！」

「俺は暗黒機皇帝の頭を狙う！」

と 遊馬としては珍しく自分で暗黒機皇帝について理解した。

「遊馬…いつものバカの君なら気付かないのに、今日の遊馬は、何かが違う…」

と アストラルは不思議に思えた。

「いけ！ ホープ！ 暗黒機皇帝の頭に攻撃！」

ホープは剣を抜き 暗黒機皇帝の頭、インフィエリオンTに切りかかる。

「ホープの効果！ オーバーレイユニットを一つ使い 戦闘を無効にする！ ムーンバリア！」

なんと 遊馬は攻撃を無効にした。

ホープは胸にオーバーレイユニットが当たり、そのまま攻撃を止め

た。

「そして、手札から速攻魔法！ ダブルアップチャンスを発動！ 攻撃が無効にされた時のみ発動出来る。 攻撃力を倍にし、もう一度バトル出来る！」

ホープの剣が二倍長くなった。

No.39 希望皇ホープ 攻撃力5000

「この攻撃が決まれば 1ターンキルが成立する！」

「行け！ ホープ剣スラッシュ！」

長くなった剣で ホープは暗黒機皇帝の頭に切りかかったが…

「罠カード発動！ インフルエンスG2！」

罠カードを発動した。

「自分フィールド上のインフイエリオンGを除外して、デッキからインフイエリオンG2を特殊召喚する！」

インフイエリオンG2 守備力0

今度はハリネズミのような機械が現れ さっきよりトゲが増えた右手になり 合体した

「パワーアップした…」 遊馬は驚いてる。

「そして、インフイエリオンG2の効果！」

なんとまた暗黒機皇帝のコアから リバイス・ドラゴンが出てきた。
「！？」

「装備したモンスターを戦闘の身代わりにする」

ズバッ！ と、ホープは暗黒機皇帝ではなく、リバイス・ドラゴンを切りかかってしまった。

黒い仮面 LP1000

「そ そんな… 倒せなかった。」

暗黒機皇帝はフィールドにいる。 それはつまり、次のターン、モ

ンスターエクシーズであるホープを吸収されるということ。

遊馬には 手札がない フィールドにも何も無い…

「ターンエンド…」

と 遊馬は諦めるしかなかった。

「私のターン！」

黒い仮面がカードをドローした。

「暗黒機皇帝インフィエリオンの効果！ ホープは頂く！」

暗黒機皇帝のコアから触手が出てきて、ホープを絡めとった。

「愚かなホープよ！ 暗黒機皇帝の糧となれ！」

ホープはコアの中に閉じこめられた。

暗黒機皇帝インフィエリオン 攻撃力6900

遊馬にはもう モンスターも罾カードも手札にも何も無い…

「アストラル！」

と遊馬は思わずアストラルを頼ろうとしたが、「終わった…」とアストラルは動揺して言った。

「フハハハハハ ただ倒すのも面白くない。 愚かな道標の効果！」

リバイス・ドラゴンとホープがコアから出てきた。

「吸収したモンスターで攻撃出来る！ 行け！ 愚かなナンバーズ共ダイレクトアタック！」

暗黒機皇帝に操られたホープとリバイス・ドラゴンは遊馬を攻撃した。 このデュエルはダメージ現実となる。 この2体の攻撃を身で喰らったら危険だ。

「うあああああああ」

遊馬 L P O

その瞬間 遊馬の両親の形見 皇の鍵が ホープとリバイス・ドラゴンの攻撃をバリアで防いだ。

「な 何だ！」 黒い仮面も 少し動揺した。

しかし バリアも防ぎきれず 衝撃は遊馬を襲った。 されるという

こと。

遊馬には 手札がない フィールドにも何もない…

「ターンエンド…」

と 遊馬は諦めるしかなかった。

「私のターン！」

黒い仮面がカードをドローした。

「暗黒機皇帝インフィエリオンの効果！ ホープは頂く！」

暗黒機皇帝のコアから触手が出てきて、ホープを絡めとった。

「愚かなホープよ！ 暗黒機皇帝の糧となれ！」

ホープはコアの中に閉じこめられた。

暗黒機皇帝インフィエリオン 攻撃力6900

遊馬にはもう モンスタースタも罨カードも手札にも何もない…

「アストラル！」

と遊馬は思わずアストラルを頼ろうとしたが、「終わった…」とアストラルは動揺して言った。

「フハハハハハ ただ倒すのも面白くない。 愚かな道標の効果！」

リバイス・ドラゴンとホープがコアから出てきた。

「吸収したモンスターで攻撃が出来る！ 行け！ 愚かなナンバーズ

共 ダイレクトアタック！」

暗黒機皇帝に操られたホープとリバイス・ドラゴンは遊馬を攻撃した。 このデュエルはダメージ現実となる。 この2体の攻撃を身で喰らったら危険だ。

「うあああああああ」

遊馬 L P O

その瞬間 遊馬の両親の形見 皇の鍵が ホープとリバイス・ドラ

ゴンの攻撃をバリアで防いだ。

「な 何だ！」 黒い仮面も 少し動揺した。

しかし バリアも防ぎきれず 衝撃は遊馬を襲った。

「うああああああ」 吹っ飛ばされたが 大きな怪我はなかった。

黒い仮面はその場を去ろうとすると、 「テメエ… 一体何者だ？…」 と弱々しく遊馬は尋ねる。

すると、黒い仮面は 仮面を取り 被っていたフードを取っ払った。遊馬とアストラルは驚いた。 「お 女！？」 されるといふこと。

遊馬には 手札がない フィールドにも何も無い…

「ターンエンド…」

と 遊馬は諦めるしかなかった。

「私のターン！」

黒い仮面がカードをドローした。

「暗黒機皇帝インフィエリオンの効果！ ホープは頂く！」

暗黒機皇帝のコアから触手が出てきて、ホープを絡めとった。

「愚かなホープよ！ 暗黒機皇帝の糧となれ！」

ホープはコアの中に閉じこめられた。

暗黒機皇帝インフィエリオン 攻撃力6900

遊馬にはもう モンスターも罫カードも手札にも何も無い…

「アストラル！」

と遊馬は思わずアストラルを頼ろうとしたが、 「終わった…」 とアストラルは動揺して言った。

「フハハハハ ただ倒すのも面白くない。 愚かな道標の効果！」

リバイス・ドラゴンとホープがコアから出てきた。

「吸収したモンスターで攻撃が出来る！ 行け！愚かなナンバーズ 共 ダイレクトアタック！」

暗黒機皇帝に操られたホープとリバイス・ドラゴンは遊馬を攻撃した。 このデュエルはダメージ現実となる。 この2体の攻撃を身で喰らったら危険だ。

「うあああああああ」

遊馬 L P O

その瞬間 遊馬の両親の形見 皇の鍵が ホープとリバイス・ドラゴンの攻撃をバリアで防いだ。

「な 何だ！」 黒い仮面も 少し動揺した。

しかし バリアも防ぎきれず 衝撃は遊馬を襲った。

「うあああああああ」 吹っ飛ばされたが 大きな怪我はなかった。

黒い仮面はその場を去ろうとすると、 「テメエ… 一体何者だ？ …」と弱々しく遊馬は尋ねる。

すると、黒い仮面は 仮面を取り 被っていたフードを取っ払った。遊馬とアストラルは驚いた。 「「お 女！？」」 なんと黒い仮面は男ではなく 女だった。

その女は綺麗でまっすぐな黒い髪をしたとても美人な大人の女性だった。

しかし、その綺麗な顔には、たくさんの古傷があった。

「私の名前は『ゼロム』 破滅への先導者」

その女性ゼロムは言った。

「今日は見逃してやる… 他の所でも、デュエリストを叩き潰さねばならないからな…」

と言に残し、去って行った。

「ま…て…」 遊馬はそのまま気絶してしまった…。

暗黒機皇帝VSナンバーズ（後書き）

次回予告

遊馬「謎の女ゼロムに惨敗した俺たち。そこに、ネオドミノシテ
イのプリンセスがこの町にやって来たした。」

遊馬「次回 遊戯王ZEXAL外伝 『ネオドミノのデュエルプリ
ンセス降臨！』 貴女…はまさか！」

ネオドミノのデュエルプリンセス 降臨！（前書き）

今回の最強カード

なし。

遊馬「え！？ なし？」

アストラル「今回はデュエルなしのようだな……」

ネオドミノのデュエルプリンセス 降臨！

謎の女ゼロムに負けた遊馬は 騒ぎに駆けつけた人によって 病院に運ばれた。幸いにも、遊馬は、皇の鍵によって守られたので、怪我が少なかった。

しかし…

「……………」

やはりゼロムとの戦いに負けたことに落ち込んでいた。凌牙の仇をとれず、惨敗…。最後のターンのダイレクトアタックは、中学生の遊馬にとっては衝撃が強すぎた。

なぜなら、自分のモンスターであり、仲間である、ホープやリバイス・ドラゴンに攻撃されたこと。

しかも現実の衝撃は トラウマになった。

それ以来、遊馬は、ホープやリバイス・ドラゴンのカードを見ただけで 怖くなり、デュエルもやる気がなかった。一方、アストラルは…

「一体何なんだ？ あのモンスターは…」

と 遊馬の皇の鍵の中にいた。あの時のデュエルを思い出していた。

「暗黒機皇帝… ナンバーズとは違う、何か強力な力を感じた…」

しかも アストラルもあの時、痛みを感じていた。

「あのデュエルで感じた、今まで感じたことのない感覚…これが痛みというものか…」

アストラルは一人、謎の現象にしばらく頭を抱えていた。

それから3週間後…

遊馬はいつもの様に学校に通っていた。

あれ以降、ゼロムはこの町に現れなくなり、ハートランドシティは、またデュエルが盛んに行われるようになっていた。

しかし、

「遊馬…今日もデュエルしないの？」 と小鳥が毎日のように聞いても、遊馬は、

「ああ…今日は婆ちゃんのお遣い頼まれてんだ…」

のように ぶつきらばうに返事をし そのまま帰っていった。

遊馬は、いつものように振る舞っていたが、デュエルと聞くと、急に元気が無くなり、今のような、そっけない感じになっていた。

そんなある日、

「この頃、遊馬、どうしたのかな…」

と 考えるのは、遊馬の担任教師、北野右京だ。

彼は今、出勤してる中学校に向かっている。

と そこに、

「あの すみません。 道案内をしていただけませんか？」と、一人の女性が 右京に尋ねた。

その女性は、綺麗な赤髪で、サファイアのような、美しい瞳 をしていた。

服装は、ドレスのように、肩まで出たピンクの服に、ミニデニムと

黒のハイソックスを身につけていた。

そして、彼女の肩から見える黒い紐と、豊満な胸が、彼女の色気を引き出していた。

これには右京も、さすがに顔を赤くしてしまった。

「あのー 聞いてます？」

「え？ あ！ ふあい！」↑（噛んだ）

右京は 焦りながら返事をした。

「？ この中学校何ですけど…」

と、女性はその探してる中学生の写真を見せて、右京に尋ねた。

「はあ… ここ、僕の出勤してる中学校じゃないか！」

と 右京は驚いた。

「知ってるんですね。 じゃあ、案内お願い出来ませんか？」

と やや上目遣いで右京を見た。

「い 良いですよ！」

と 焦って答えるしかなかった。

「それにしても、この人、どこかで見たことあるような…」と 右

京は考えていた。

「ここが、中学校だよ」 と 右京は、女性を案内した。

「それにしても、何で私の中学校に？」

と 右京は質問をした。

「会いたい少年がいるの。 そう、九十九遊馬君にね。」

と 女性は笑顔で答えた。

「何故、遊馬に？」

とまた質問する右京。

「フフ そう言えば、自己紹介がまだだったわね。 私の名は…」

とその名を聞いた瞬間、右京は驚いた。

それからしばらく時が経ち、

遊馬は今、4時限目の体育の跳び箱の授業を受けていた。

遊馬は、いつものように、かっとビングだ！　とか言ってバ力な挑戦ばかりしている。

跳び箱20段を飛ばうとしたが、やはり、跳び箱に激突し、いつものようにみんなに笑われていた。

みんなに笑われるのは、日常だったが、この日は違った。ある一人の生徒が、

「アツハハハ！　バカだコイツ！　ダッセー！」

と　遊馬を馬鹿にした。

その時、

「やめなさい！」

と、言ったのは、生徒でもなく、一人の女性だった。　見覚えのない、綺麗な大人の女性だ。

その女性は　授業中にも関わらず、ズカズカと体育館に入って来て、さっきの遊馬を馬鹿にした生徒の頬をつねった。

「いたたたっ」

「頑張っている人を、あざ笑うなんて、貴方、男の子として最低よ！」

と、女性はその生徒を睨みつけた。

「いてて、誰だよアンタ！　って、オイ！　この人……」

と、生徒は動揺した。

「あ、あの人は！ 綺麗な赤髪に、サファイアのような目、そしてあのファッションモデル顔負けのプロポーション、間違いない！」と、等々力も驚いた。

「彼女は、とどのつまり、不動優絆ふどうゆうけんです！！」と、等々力が言うと、皆が騒いだ。

「おい、何であの不動優絆が？」

「すつげー！ 本物だ！」

「綺麗な人だ！」

超有名人登場により、生徒たちの興奮も、最高潮でになった。それもそのはず。

彼女、不動優絆は、伝説のデュエリストにして、ネオドミノシティの英雄、そして、優秀なモーメント研究者の不動遊星と、ネオドミノシティで有名な美人女医、十六夜アキ（現在、不動アキ）の二人の間の娘なのだから。

「ちよつと！ 昼休みまでは出てこないように言っただでしょう！」と、右京が彼女に注意した。

「うふふ、ごめんなさい。大人気なかったわね。」と、優絆は軽く謝罪した。

「すつげー！ 本物の不動優絆だ！」と 遊馬もはしゃいでいた。

「あれが、伝説のデュエリストの娘、不動優絆。」とアストラルも興味津々に出てきた。

「あれ、記憶無いのに、何で知ってんの？」と遊馬は聞いた。
「不動遊星は伝説のデュエリストだから私の記憶にある。」
と、アストラルは答えた。

そして、不動優絆の登場により、生徒たちが、騒ぎ出し、授業にならなかつたらしい…

そして昼休み、

優絆は、遊馬のクラスにやって来た。

「九十九遊馬君で、居るかしら。」

「はい、俺だけど…」

と、遊馬は答え 優絆の所へ行つた。

「遊馬君、突然だけど、デュエルしない？」と、言った。
普段の遊馬なら、喜んでデュエルをする。

しかし、この間のゼロムのデュエルでトラウマになっていて、遊馬は首を縦に振れなかった。

「どうしたの？」

と、優絛が聞いた。

「すみません。俺、今そんな気分じゃ…」
と断ろうとしたが、

「やってみなよ！遊馬！」

と 小鳥が遊馬に言った。

それに続き、鉄男も、

「そうだが 遊馬！ こんなスゲーデュエリストが目の前に居るんだぜ？ かつとビングはどうしたんだよ！」
と、言った。

「…。 そうだよな！ 目の前にこんなスゴいデュエリストがいるんだ。 デュエルするしかないな。」

と、遊馬はデュエルにやる気を出した。

「それでこそ君らしい」

と アストラルも呟いた。

「じゃあ、決まりね！」と、優絛と遊馬はデュエルディスクをセツトした。

「デュエル！！」

ネオドミノのデュエルプリンセス 降臨！（後書き）

次回予告

遊馬「伝説のデュエリストの娘 不動優絆さんとデュエルすることになったんだ。」

アストラル「やはり、さすが伝説のデュエリストの血を引く者…
やはり強い！」

遊馬「次回 遊戯王ZEXAL外伝 『優絆のデュエル』」

遊馬「かつとピングだ！ 俺！」

優絆のデュエル（前書き）

今回の最強カード

星空のオーブ

光属性 天使族 通常モンスター

攻撃力0 守備力0

フレーバーテキスト

星空の力を一つに凝縮した輝かしいオーブ。
同士たちに星空の加護を与えん！

このカードはデッキに一枚しか入れれない。

優絆「私のゾディアックデッキの要のカードね。」

遊馬「あれ？ カードの左下に一枚しか入れれないで書いてある。」

優絆「私もよく分からないけど、一枚しか入れれないみたいね。」

優絆のデュエル

「デュエル!!」

かくして、遊馬と優絆のデュエルが始まった。

遊馬 LP 4000

優絆 LP 4000

「俺のターン! ドロー!」

と、遊馬から始まり、カードをドローした。

「遊馬、ナンバーズを使い!」
と アストラルが入って来た。

「何でだよ! あの人、ナンバーズじゃないのに?」
と 遊馬が言うと、

「彼女は、伝説のデュエリストの血を引く者、おそらくかなりの
ウデだ。 ナンバーズを使って、やっと互角になるだろう。」と答
えた。

「わかったよ! じゃあ俺は、モンスターを裏側守備表示でセット。
ターンエンド。」遊馬のターンが終わった。

「なぜだ? 遊馬...。いま伏せたのはゴゴゴゴーレム... それに手

札にはカゲトカゲがある。 普段の君なら、先行にも関わらず、無闇にホープを出すはずなのに……」

と アストラルは呟いた。

「私のターン！ ドロー！」

と、優絆のターンが始まった。

「私は、ゾディアック・ソルジャーを召喚！」

星のように輝いた鎧を着た綺麗な戦士が現れた。

ゾディアック・ソルジャー 攻撃力1800

「さらに、カードを一枚伏せて、ターンエンド」
優絆のターンが終わった。

「俺のターン！ ドロー」 遊馬がカードを引いた。
引いたのは、ガガガマジシャン。

「俺は、ガガガマジシャンを召喚！」

遊馬のフィールドに、おなじみのガガガマジシャンが現れた。
ガガガマジシャン 攻撃力1500

フィールドには、レベル4のガガガマジシャンとゴゴゴゴーレム。

これで希望皇ホープを呼べる。 しかし、

「……………」

と、黙りこんでしまった。

やはりまだゼロムとの戦いでトラウマが治ってない。

遊馬は、あのデュエルを思い出してしまった。

ホープを奪われたこと、ホープに攻撃され、物理的な痛みを味わされたことを。

「遊馬！ 遊馬！」

と アストラルがボーとしてる遊馬を呼びかけた。

それにより、遊馬はわれに帰ったが、表情は暗かった。

「そうだ。今はデュエルに集中だ！」

と 遊馬は気合いを入れ直し、デュエルに戻る。

（遊馬、君は…あの時のデュエルで、ナンバーズを恐れているのか…。）

と アストラルはふと思った。

「俺は装備魔法ワンダーワンドを発動！ ガガガマジシャンの攻撃力を500ポイントアップする。」 ガガガマジシャン 攻撃力2000

「更に、ゴゴゴゴーレムを反転召喚！」

裏側守備になっていたゴゴゴゴーレムを攻撃表示にした。

ゴゴゴゴーレム 攻撃力1800

「行け！ ガガガマジシャン！ ガガガマジック！」

杖を持ったガガガマジシャンが ソディアック・ソルジャーを殴りつけようとした。

「畏カード発動！ オーブの悟り！ このカードは、ソディアックと名の付いたモンスターが攻撃宣言された時に発動できる。デッキから、星空のオーブを手札に加える。」

優絆のデッキから一枚のカードが出てきた。

「更に、ソディアック・ソルジャーの効果！ 手札の、星空のオーブを相手に見せることで、このカードのレベルを13にする。」

「レベルを13に…！」

と アストラルは驚いた。

「えっ！？ モンスターのレベルは1〜12までじゃあ…」
と 遊馬が言うと、

「そうね。 遊馬君が言ってることは、間違いではないわ。 でも、ルールより効果が優先だからね。」

それに、私のゾディアックの特徴は、星空のオーブを相手に見せて、レベル13にして、効果を発動できるの。」

と、優絆が説明した。

「そして、このゾディアック・ソルジャーは、星空のオーブを見せる事で、このカードをリリースできる。」

そして、デッキから、レベル4以下のゾディアックモンスターを手札に加える。 私は、ゾディアック・サモナープリストを手札に加える。」

ゾディアック・ソルジャーが消え、優絆はカードを一枚を手札に加えた。

「でも フィールドはから空きだ！ 行け！ ガガガマジシャン！」

と ガガガマジシャンが 優絆に殴りかかろうとすると、

「手札の ゾディアック・シールドガードナーの効果」

と 羊と盾が一体化した モンスターが現れ、ガガガマジシャンの攻撃を防いだ。

「このカードは、戦闘ダメージを受ける時、手札から、魔法・罠カードゾーンに表側にして発動する。」

そして、星空のオーブを相手に見せて、戦闘及び効果ダメージを0

にする。

三回使っと このカードは破壊される。」

ガガマジシヤンの攻撃を防ぎ、盾にひびが入った。

「くそぉー ダメージが0に… じゃあカードを一枚伏せ「待て！遊馬！！」」

と 遊馬が罨カード ハーフアン ブレイクを伏せようとすると、アストラルが止めた。

「ゴゴゴゴーレムで攻撃しないでどうする！？ 確かにダメージはないが、二回目の効果を使わせろ！」

「そっか…忘れてた。」

と もうすぐでプレイミスする所でした

「全く… 相変わらず君のデュエルタクティクスときたら…」

と呆れるアストラル。

「うるせえーな、もう！ ゴゴゴゴーレム、ダイレクトアタック！」

ゴゴゴゴレムの攻撃も、ゾディアック・シールドガードナーに止められた。

「これであと一回しか使えないんだよな。じゃあカードを一枚伏せて ターンエンド！」

遊馬のターンが終わった。

「私のターン！ ドロー」

優絛がカードをドローした。

「私は ゾディアック・サモナープリストを召喚！」

星のようにキラキラ光るマントをなびかせた僧侶が、現れた。

ゾディアック・サモナープリスト 攻撃力500

「ゾディアック・サモナープリストの効果！ 手札の星空のオーブを見せることで、このカードのレベルを13にし、ゾディアックモンスターを、レベル13にして、墓地から特殊召喚！ 現れる！ ゾディアック・ソルジャー」

ゾディアック・ソルジャー 攻撃力1800
レベル13

ゾディアック・サモナープリスト レベル13

「遊馬！ 来るぞ！」

「私はレベル13のゾディアック・サモナープリストとゾディアック・ソルジャーをオーバーレイ！」

2体が黄色い光になって一つになる。

「2体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築！ エクシーズ召喚！ 現れる！ ゾディアック・パラディンナイト！」

神々しく輝く鎧とマントを身に付けた、金髪の男のようなモンスターが現れた。

ゾディアック・パラディンナイト 攻撃力2500 レンク3

「このカードのランクは、フィールドにいる時、ランクが13になる」

ゾディアック・パラディンナイト ランク13

「げっ！ ランク13！ なんかも強そう…」

と 少し焦る遊馬。

「私は、ゾディアック・パラディンナイトでゴゴゴゴーレムを攻撃
！」

ゾディアック・パラディンナイトが光輝く剣を抜き、ゴゴゴゴー
レムに襲いかかる。

「罨カード発動！ ハーフアン ブレイク！」

遊馬は ハーフアン ブレイクを発動させるが、

「ゾディアック・パラディンナイトの効果！ オーバーレイユニッ
トがある状態で攻撃する時、相手が罨カードを発動してきたとき、
1ターンに1度、罨カードの効果に向こうにし、再セットさせる！」

ハーフアン ブレイクは 効果が無効になり 裏側にセットされた。

「バトル続行！ いけ！ゾディアック・パラディンナイト！ 星界
の剣 ファンタジア！」

ゴゴゴゴーレムは星界の剣により、切り裂かれた。

遊馬 LP3300

「更に、ゾディアック・パラディンナイトの効果！ 戦闘を行ったターンのバトルフェイズ終了時に、オーバーレイユニットを一つ使い、相手のカードを一枚破壊する。私は、ガガマジシャンを破壊するわ」

ゾディアック・パラディンナイトの周りに漂う光の球が剣に宿り、その剣で、ガガマジシャンに切りかかった。

「カードを一枚伏せてターンエンド」

優絛のターンが終わった。

「そんな…。モンスターが全滅…」

遊馬は動揺してしまった。

（前のターン、ホープさえ出していれば…。）

アストラルは呆れてそう言っしかなかった。

遊馬の手札は三枚

カゲトカゲ

フルエルフ

死者蘇生
の三枚である。

このピンチの上、トラウマによるホープへの、ナンバーズへの恐怖
が 遊馬を襲っていた。

その時、

「どうしたの？ 遊馬君」

と 優絆が遊馬に尋ねた。

「は！ すみません！ 何でもありません」「ウソね！」

遊馬は何でもない、とウソを言おうとすると、優絆は遊馬の声を遮るように、言葉を放った。

「君、何かを恐れてるでしょ？」

と 優絆が言うつと、遊馬は驚いた。

「…何で…？ わかったんだ…？」

「今の君のデュエルは、何かを恐れているわ。

何かは聞かないけど、遊馬君が怖がってどうするの！？ そのカード達は君のために戦ってるのよ。だから君は、そのカード達、『仲間』達の期待に応えるために、勇気をもって、デュエルしなければいけないんじゃないの！？」

「仲間達の為に…」

優絆の言葉に遊馬は 恐怖のあまり、忘れてたいたことを思い出した。

モンスターは自分の為に戦ってくれてる仲間であるということ。

「……………。そうだよな……。モンスターは、俺の仲間……。今

までそう信じて戦ってきたのに…。俺…。あのデュエルから、ナンバーズを、仲間を怖がってばかりだ…。

ゴメン！ ごめんな…。俺の…。大切な仲間達！」

（遊馬…。ようやく恐怖を乗り越えたな。）

アストラルも嬉しそうに呟いた。

「俺はもう、何も恐れない！ かつとビングだ！俺！」

そして遊馬は、デッキに手をかける。

「デッキよ！ 仲間よ！ 俺に力を貸してくれ！ ドロー！」

ドローカードは、ガンバラナイト！

「やった〜。ありがとう！ 仲間達！ 俺はガンバラナイトを召喚！」

遊馬の場に盾を2つ持った戦士が現れた。

ガンバラナイト 攻撃力0

「そして、カゲトカゲを特殊召喚！ このカードは通常召喚出来ないけど、レベル4のモンスターを召喚した時、手札から特殊召喚できる。」

カゲトカゲ 攻撃力1500

「行くぜ！ 俺はレベル4のガンバラナイトとカゲトカゲをオーバーレイ！ 2体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築！ エクシーズ召喚！ 現れる、No.39 希望皇ホープ！！」

輝かしく現れたのは、遊馬のナンバーズ一枚にしてエースカード
希望皇ホープ！

No.39 希望皇ホープ 攻撃力2500

「ようやくお出ましね。 君のエースカード、希望皇ホープ」

優絛もまた嬉しそうに言った

「希望皇ホープで、ゾディアック・パラディンナイトを攻撃！ ホープ剣スラッシュ！」

光輝く剣を振り回し、相手に切りかかった。そして、ゾディアック・パラディンナイトは切り裂かれ、破壊された。

「攻撃力は互角だけど、ナンバーズはナンバーズ以外の戦闘では破壊されない！」

ナンバーズ特有の耐性効果により、ホープは破壊されず、ゾディアック・パラディンナイトが一方的に破壊された。

「ターンエンド！」

「そうよ。それでこそ貴方らしいわ。さあ 楽しみましょう！行くわよ、私のターン！」

優絆のターンが始まった。

「私は魔法カード、星の再光 手札の星空のオーブを見せることで、墓地のゾディアックを特殊召喚できる。現れよ！ ゾディアック・サモナープリスト！」

ゾディアック・サモナープリストがまた現れた。

ゾディアック・サモナープリスト 攻撃力500

「ゾディアック・サモナープリストの効果で、このカードのレベル13にして、墓地のゾディアックをレベル13にして特殊召喚いでよ！ ゾディアック・ソルジャー！」

ゾディアック・ソルジャー 攻撃力1800 レベル13

ゾディアック・サモナープリスト レベル13

「そして、星の再光の効果で、特殊召喚したゾディアックがレベル13になったら破壊される。」

ゾディアック・サモナープリストが星に包まれ、破壊された。

「そして、チューナーモンスター、アドバンス・シンクロンを通常召喚。」

優絆の場に、変わったロボットが現れた。

アドバンス・シンクロン 攻撃力0

「まさか、シンクロ召喚!？」

と 傍観者の等々力が言った。

「シンクロ召喚？」

と 同じく傍観者の小鳥が聞いた。

「シンクロ召喚は、チューナーと言う、モンスター一体とチューナー以外のモンスターを墓地に送って行う一つ前の召喚方法さ。今のエクシーズ召喚の基礎となった召喚方法だ。」

と 鉄男が小鳥に説明した。

「アドバンス・シンクロンの効果で、シンクロ召喚する際、このカード以外のモンスターのレベルを元に戻して、シンクロ召喚する。」

ゾディアック・ソルジャー レベル4

「レベル4のゾディアック・ソルジャーに、レベル4のアドバンス・シンクロンをチューニング！」

「集いし願いが新たに輝く星となる。 光差す道となれ。 シンクロ召喚！ 飛翔せよ！ スターダスト・ドラゴン!!」

星屑を散らし、輝かしい姿をしたドラゴンが舞い上がった。
そのモンスターこそ、伝説のデュエリスト、不動遊星のカード、ス
ターダスト・ドラゴンである。

スターダスト・ドラゴン 攻撃力2500

「すげー！ スターダスト・ドラゴン！」

と、鉄男は、目を輝かせた。

「綺麗…。」

小鳥もその美しさに見とれていた。

「これが、伝説のデュエリストのエースモンスター、スターダスト・
ドラゴン…。」

アストラルも無意識にそう呟いた。

「カッコイイ！ 生でスターダスト・ドラゴンを見れるなんてスゲー！」

遊馬もスターダスト・ドラゴンに興奮していた。

「そんなに喜んで貰えると、召喚して良かったわ。さあ、スターダスト・ドラゴン！行くわよ！ 希望皇ホープを攻撃！」

スターダスト・ドラゴンが攻撃する体勢に入り、

「ホープはナンバーズでなければ倒せない。なのに何で…。」

「罨カード発動！ 星界の力！ 発動後、装備カードになり、スターダスト・ドラゴンの攻撃力を800ポイントアップする」

「星屑が、スターダスト・ドラゴンを包み込んだ。

スターダスト・ドラゴン 攻撃力3300

「こ 攻撃力3300!？」

「行くわよ！ シューティング・ソニック！」

スターダスト・ドラゴンが口から、光線を吐いた。

「ホープの効果！ オーバーレイユニットを一つ使い、戦闘を無効にできる！ ムーンバリア！」

光の球が、ホープの胸のコアに当たり、羽を広げ、バリアを作り上げ、スターダスト・ドラゴンの攻撃を無効にした。

「やるわね。 遊馬君。 星界の力の効果発動！ 装備モンスターが攻撃宣言したターンのバトルフェイズ終了時、星空のオーブを見せることで、カードを一枚ドロースる。 さらにカードを一枚伏せてターンエンド。」

優絛のターンが終わる。

「俺のターン！ ドロー！」

引いたのは、ガガガボルト。

「魔法カード、死者蘇生を使い、ガガガマジシャンを復活させる。」

墓地から、ガガガマジシャンが復活した。

「さらに、魔法カード、ガガガボルトを発動！ ガガガマジシャンがいる時、モンスターを一体破壊する。 スターダスト・ドラゴン
を破壊！」

ガガガマジシャンが、手から雷を発動させ、スターダスト・ドラゴンを襲った。

「スターダスト・ドラゴンの効果！ このカードをリリースして、破壊効果を無効にする。 ヴイクティム・サンクチュアリ！」

スターダスト・ドラゴンが、星屑となり、ガガガボルトを包み込み、消し去った。

「そして、エンドフェイズに特殊召喚させる。」

「てことは、またスターダスト・ドラゴンはフィールドに帰ってくるって？」

遊馬が言うと、アストラルが

「だが、チャンスだ。スターダスト・ドラゴンがいなくなって、ダイレクトアタックができる。ゾディアック・シールドガードナーの効果はあと一回だから…。遊馬！ ガガガマジシャンから攻撃しろ。そうすれば、ホープの攻撃で大ダメージを与えられる。」

と言った。

「おう！ まずは行け！ ガガガマジシャン！ ダイレクトアタック！」

ガガガマジシャンの拳が、ゾディアック・シールドガードナーに当たり、破壊された。

「そして、ホープでダイレクトアタック！ ホープ剣スラッシュ！」

光輝く剣が優絆を切りかかるが、

「罨カード発動！ くず鉄のかかし！ モンスターの攻撃を無効にする。」

ホープの攻撃をくず鉄のかかしが受け止めた。

「発動後、このカードを再セットする。」

くず鉄のかかしは墓地に行かず、裏向きにフィールドに残った。

「これじゃ、次から一回は攻撃を防がれる、てこと。くっ
インエンド」

遊馬のターンが終わり、

「エンドフェイズ、スターダスト・ドラゴンが特殊召喚される。」

スターダスト・ドラゴンが蘇った。

「私のターン！ ドロー！」

優絆は引いたカードを見て、微笑んで言った。

「私も少し本気を出そうかしら。」

「あれだけの強さで、まだ本気じゃなかったのか！？」

と、アストラルは驚いた。

「私はチューナーモンスター、ゾディアック・キャットを召喚！」

体の九割が藍色の何とも可愛らしいネコが現れた。

ゾディアック・キャット 攻撃力1200

「ゾディアック・キャットの効果！ 召喚に成功した時、デッキのレベル3未満のゾディアックモンスターを特殊召喚できる。 私は、ゾディアック・スピダーを特殊召喚！」

ゾディアック・キャットが優絆のデッキを漁って、カードを一枚、手に持って、掲げた。

そして、背中にジェット機が付いて、ローラーブレードを履いた口ボットが現れた。

ゾディアック・スピダー 攻撃力500 レベル1

「さらに、レベル1のゾディアック・スピダーにレベル1のゾディアック・キャットをチューニング!」

ゾディアック・キャットが一つの星の輪を出し、ゾディアック・スピダーを包み込む。

「集いし願いが新たな速度の地平へ誘う。光差す道となれ! シンクロ召喚! 希望の力 フォーミュラ・シンクロン!」

F1レースの車のようなモンスターが現れた。

フォーミュラ・シンクロン 攻撃力200

「フォーミュラ・シンクロンの効果で、カードを一枚ドロ! 見せてあげるわ。シンクロ召喚の力を!」

と、言い出し、彼女はバッグから、グローブのような物をはめ、白紙のカードを掲げた。

その時、グローブの手首の部分が虹色に輝きだした。よく見ると、光は回っているようにも見えた。

そして、グローブに握られたカードに、風が集まった。

「何だ！ あれは！」

と 遊馬が言った。

「見せてあげる。シンクロ召喚の進化を！
集いし夢の結晶が、新たな進化の扉を開く！ 光差す道となれ。
モーメントオーバードライブアクセルシンクロ！」

フォーミュラ・シンクロンが消え、スターダスト・ドラゴンに沢山の光と風が与えられた。そして、白紙のカードが、シンクロモンスターになった。

「生来せよ！ シューティングスター・ドラゴン！！」

なんと、優絛が出したのは、本来、ライディング・デュエルでしか出せないはずのアクセルシンクロモンスターを スタンディング・デュエルで出した。

シューティングスター・ドラゴン 攻撃力3300

「攻撃力3300…」

「スゲー！ スターダスト・ドラゴンが進化した！ かつこいい！
！」

超ド級のモンスター登場に遊馬は喜んでいた。

「そんな事言ってる場合か？ 警戒しろ 遊馬。」

とすかさずアストラルが言った。

「シューティングスター・ドラゴンの効果！ 1ターンに1度、デ
ツキの上より、カードを五枚確認して、チューナーモンスターの数
だけ、攻撃できる。」

優絳は カードを五枚めくり、確認した。

引いたのは、もう一枚のアドバンス・シンクロンとクイック・シンクロンそして、ゾディアックモンスターのチューナーの計三枚。

「よって、シューティングスター・ドラゴンは三回攻撃できる。」

「三回もあの攻撃力を喰らうのか…。」

「行け！シューティングスター・ドラゴン！ ガガガマジシャンに攻撃！ スターダスト・ミラーージュ！」

シューティングスター・ドラゴンが物凄い勢いでガガガマジシャンを狙う。

「一回目はホープの効果で、バトルを無効にする。」

ホープのバリアが、ガガガマジシャンを守った。

「あと二回の攻撃！ガガガマジシャンを攻撃！」

「畏カード発動！ ハーフアン・ブレイク！ ガガガマジシャン

はこのターン、戦闘では破壊されず、受けるダメージは半分になる。
」

シャボン玉が、ガガガマジシャンを包み込み、守った。

シューティングスター・ドラゴンは分身し、一気にガガガマジシャンを襲った。

遊馬 LP 1400

「メインフェイズ2、手札から魔法カード、ネビュラ・バーンを発動！ 星空のオーブを見せて、ゾディアックを2体除外することで、カードを一枚ドローできる。
さらに相手に600ポイントダメージを与える。」

優絛がカードを引き、遊馬にダメージがいった。

「うあああああ！」

遊馬 LP800

「カードを一枚伏せてターンエンド。」

「ライフがあと800…俺のターン！ ドロー！」

引いたのは、ズババナイト

「今の手札じゃ、シューティングスター・ドラゴンを倒せない。
どうすれば…」

考える遊馬にアストラルが言った。

「遊馬！ 今こそホープレイを使う時だ。」

「何でだよ？ 優絆さんはナンバーズじゃないから、流石にホープ
レイは…」

遊馬は、ナンバーズ所有者以外のデュエルでは、ナンバーズを使わ
ないようにしている。

正直、いくら優絆が強いと言ってもナンバーズを持たないデュエリ
ストに、ホープを使ってることに、少しためらいがあるのである。

「今この状況からの逆転は、ホーププレイしかない。それに…。」

「それに？」

遊馬が聞くと、アストラルは口を開いた。

「私も、目の前にいる相手と、本気で闘ってみたい。」

アストラルは少し笑顔で、遊馬に気持ちを伝えた。

「アストラル…。わかった。じゃあ、全力でぶつかろうぜ！
いくぜ！ ライフが… 「まで！遊馬！」」

と、アストラルが止めた。

「そのままでは、オーバーレイユニットが足りないし、くず鉄のか
かしで受け止められる。」

「どうすればいいんだよ？」

アストラルは言う、

「遊馬！ フルエルフを召喚し、効果を使え！」

「それでどうすんだよ？」

と 遊馬は聞いた。

「我々のナンバーズに、オーバーレイユニットを復活させるナンバーズがいるはずだ」

「あ！ なる程！」

遊馬がわかったようだ。

「俺は、フルエルフを召喚！」

金髪で華奢な感じの剣士が現れた。

フルエルフ 攻撃力800

「そして、フルエルフの効果で、手札のモンスターを墓地に送り、そのモンスターのレベル分、レベルアップできる。」

アストラルが言うと、

「俺が効果を使うんだ！」

と はしやいだ。

「全く… 俺はフルエルフの効果で、手札のズババナイトを墓地に送り、レベルをズババナイトのレベル、つまり3アップする。」

フルエルフ レベル5

「さらに、ガガマジシヤンの効果でレベルを5にする」

ガガマジシヤン レベル5

「レベル5のガガマジシャンとフルエルフをオーバーレイ！ 2
体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築！ エクシース
召喚！ 現れよ！ No・19 フリーザードン！」

氷の体で出来た怪物こそ、絶対零度のナンバーズ、フリーザードン
！

No・19 フリーザードン 攻撃2000

「フリーザードンのオーバーレイを使い、仲間モンスターエクシ
ースのオーバーレイユニットを復活させる。」

フリーザードンがおだけび、地面から、オーバーレイユニット二つ
が現れ、再びホープを包み込む。

No・39 希望皇ホープ オーバーレイユニット 二個

「行け！ 遊馬！」

「おう！ ライフが1000に満たない時、フィールドの希望皇ホープをオーバーレイユニットにし、自らを進化させる。カオスエクスチーズチェンジ！ 現れよ！ C N o . 3 9 希望皇ホーププレイ！」

ホープが光に包まれ、輝かしい真の姿を現した。

C N o . 3 9 希望皇ホーププレイ 攻撃力2500 オーバーレイ
ユニット三個

「スゴい！ コレがモンスターエクスチーズの進化…。」

優絆もさすがに驚いた。

「ホーププレイの効果！ オーバーレイユニットを一つ使い、攻撃力を500ポイントアップする！ 3つのオーバーレイユニットを使う！ オーバーレイチャージ！」

3つの光の球がホーププレイの大剣に集まり、攻撃力を上げた。

C N O ・ 3 9 希望皇ホープレイ 攻撃力4000

「そして、取り外したオーバーレイユニット×1000ポイントダウン！」

シューティングスター・ドラゴン 攻撃力300

「これでシューティングスター・ドラゴンを倒せる！ 行け！遊馬！」

アストラルが言うと、

「おう！ まずはフリーザードンでシューティングスター・ドラゴンを攻撃！」

フリーザードンが口から凄まじい冷気を発した。

「畏カード！ くず鉄のかかしを発動！ モンスターの攻撃を無効

にし、再セットする。」

フリーザードンの攻撃は止められた。

「これで彼女は、攻撃を止めれない。」

「希望皇ホーププレイで攻撃！」

ホーププレイが大剣を掲げた。

「『ホープ剣カオススラッシュュ!!!』」

シューティングスター・ドラゴンに切りかかるが…。

「シューティングスター・ドラゴンの効果発動！ シューティングスターは相手ターンに一度、除外できる。」

シューティングスター・ドラゴンが消えてしまった。

「なっ何!？」

「そして、相手モンスターの攻撃を無効にできる。」

「手札も伏せカードもない。ターンエンド…。」

遊馬のターンが終わり、

「エンドフェイズ、シューティングスター・ドラゴンは特殊召喚できる。」

シューティングスター・ドラゴンが戻ってきた。

遊馬の場には、攻撃力2500に戻ってしまったホーププレイ、そして攻撃力2000のフリーザードンのみ。

シューティングスター・ドラゴンでフリーザードンに攻撃されたら、遊馬の負け…。

「私のターン!」

優絆がカードを引いた。

「シューティングスター・ドラゴンで、フリーザードンを攻撃！」

シューティングスター・ドラゴンの突進がフリーザードンに命中した。

フリーザードンはナンバーズ特有の効果で破壊されないが、戦闘ダメージを受け、遊馬はライフ0になった。

遊馬 L P 0

デュエルが終わった。

優絆はグローブを外し、遊馬のそばに行った。

その時の、遊馬の表情は晴れやかであった。

「何でだろ……。負けたのに……。悔しさより、楽しさを感じる。」

不思議な感情に、遊馬は混乱した。

「それは、全力でデュエルを楽しめたからだよ。」

と、優絆は言った。

「遊馬君は、このデュエルで、恐怖を乗り越え、全力で私にぶつかった。悔いのないデュエルをした。だから、遊馬君はデュエルを楽しいと思えるの。」

優絆がウィンクして、言った。

「観察結果外伝その1　これが、伝説のデュエリストの娘、不動優絆のデュエル…。」

アストラルは観察結果をつけていた。

（この小説では、アストラルの観察結果“外伝”とさせていただきます。m（――）m

キン　コーン　カーン　コーン

と　授業のはじまるチャイムがなり始めた。

「あ！　授業が始まるのね。　じゃあ、遊馬君後で学校が終わった

ら、この喫茶店に来て。 ハイ、地図。」

遊馬は地図を受け取った。

「じゃあ 私はこれで…。 遊馬君！ 後で来てね。」

と 優絆は言って教室を出て行った。

その後、生徒たちは、不動優絆の噂や、話ばかりして、午後は授業にならなかったのは、また別の話…。

優絆のデュエル（後書き）

次回予告

遊馬「学校の後、優絆さんに呼ばれ、喫茶店に来た俺たち。そこで、この街に来た理由と、俺に頼みをしてきた。」

遊馬「次回 遊戯王ZEXAL外伝、新たなる戦いへ」

優絆「遊馬君、私と、共に……」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5134x/>

遊戯王ZEXAL外伝～暗黒機皇帝来襲!～

2011年11月8日22時06分発行